

令和7年度 紀の川市全国学力・学習状況調査結果概要



実施目的

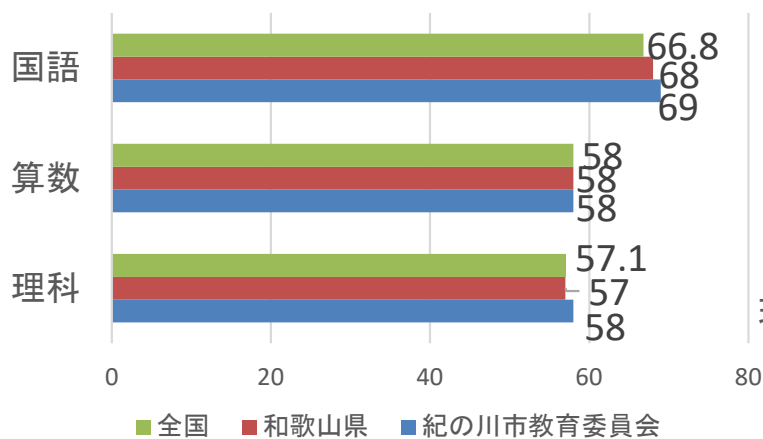
1. 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、成果と課題を検証し、その改善を図る。
2. 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立て、継続的に検証改善を繰り返すことで教育指導や学習状況の向上を図る。

実施日 学校数 児童生徒数

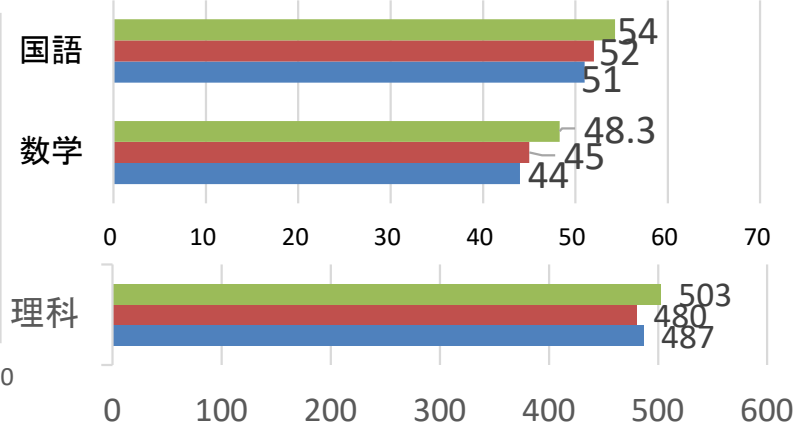
令和7年4月17日（木） ＊中学校理科のみ令和7年4月14日（月）～17日（木）の指定された日
紀の川市内小学校15校 6年生 児童406名 / 紀の川市内中学校5校 3年生 生徒416名

教科別調査結果概要

小学校正答率（％）



中学校正答率（％）



※ 中学校理科は、IRTスコアで表しています。IRTに基づいて各設問の正誤パターンの状況から学力を推定し、500を基準にして得点で表したものです。

【小学校国語解説】

漢字を書く等の基礎的な学習は定着している。「書くこと」の内容の問題は全国平均と同程度であった。「読むこと」の内容で、目的に応じて自分が納得したことを、資料に書かれていることを理由にまとめて書く記述式の問題が、全国平均を大きく上回った。

【小学校算数解説】

「図形」の領域では全国平均を上回ったが、「数と式」や「変化と関係」の領域では全国平均を下回った。「データの活用」の領域で目的に応じて適切なグラフを選択して判断し、その理由を言葉や数を用いて書く記述式の問題で全国平均を上回った。

【小学校理科解説】

全国平均を上回っており、概ね学習内容が定着していると言える。特に「地球」の領域で赤土の水のしみ込み方の違いを結果を基に結論を導いた理由を書く記述式の問題で全国平均を大きく上回った。

【中学校国語解説】

「読むこと」において、登場人物の設定の仕方をとらえること以外の全ての問題で全国平均を下回った。特に「話すこと・聞くこと」の自分の考えが明確になるように、論理の展開に注意して、話の構成を工夫することかできるかをみる選択式の問題で、全国平均を下回り、無解答率も全国平均を上回った。

【中学校数学解説】

多角形の外角の意味の理解、式の変形、その意味を読み取り事柄が成り立つ理由を説明する問題以外、全て全国平均を下回った。また、記述式の問題において無解答率も高く、特に「データの活用」や「関数」の領域では問題解決の方法を数学的に説明をしたり、筋道立てて事柄が成り立つ理由を説明したりすることに大きな課題がある。

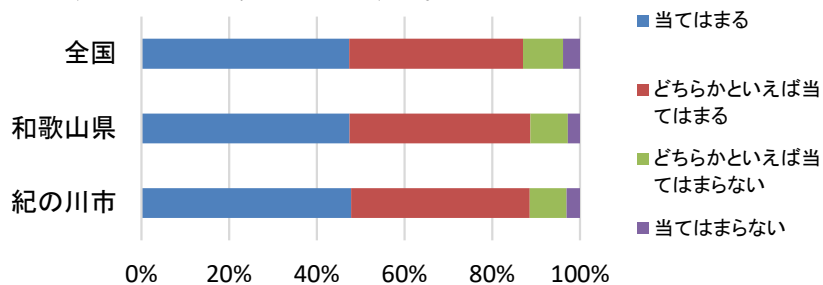
【中学校理科解説】

共通問題では、地層の性質から水が染み出る場所を判断する問題、他者の発表からの振り返りを書く問題において全国平均を上回った。実施日による異なる問題では、「地球」の領域の記述式の問題も全国平均を上回ったが、「エネルギー」「粒子」の領域での記述式問題は正答率が低い。

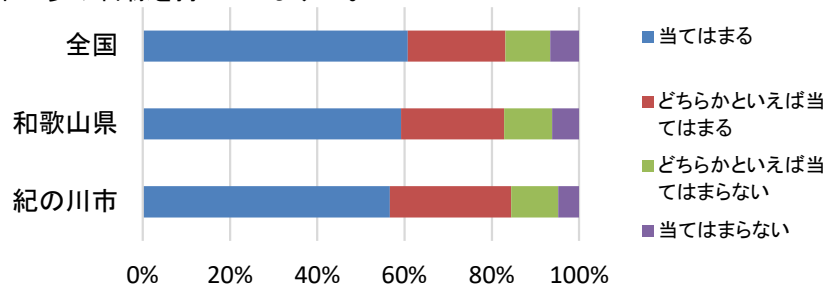
児童生徒質問紙調査結果概要 ※全項目(小71、中72)の内、特徴的なものを一部抜粋

小学校

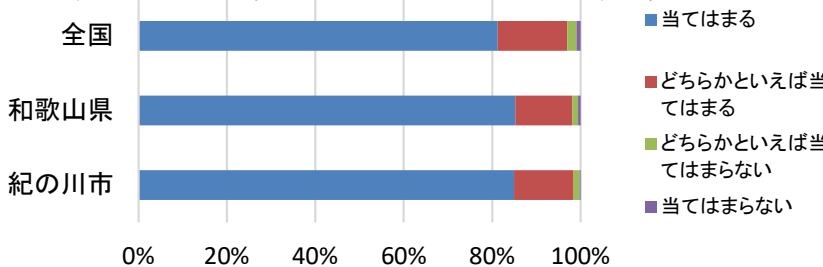
自分には、よいところがあると思いますか。



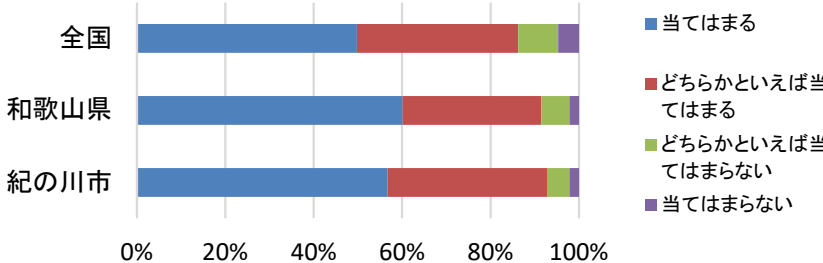
将来の夢や目標を持っていますか。



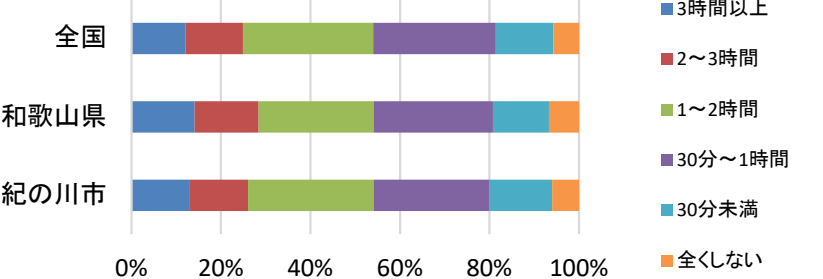
いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。



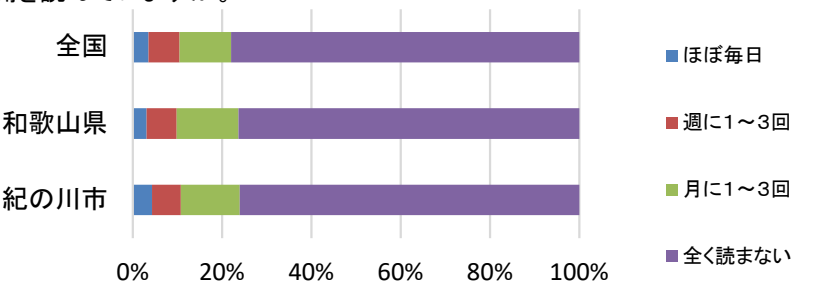
学校に行くのは楽しいと思いますか。



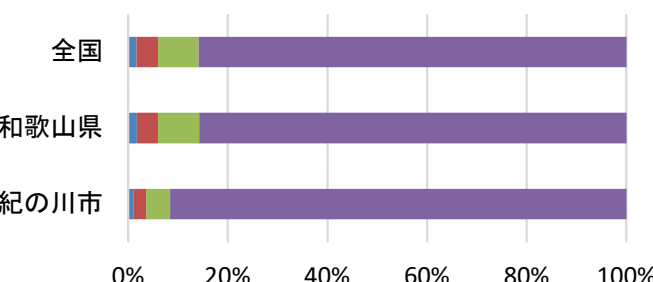
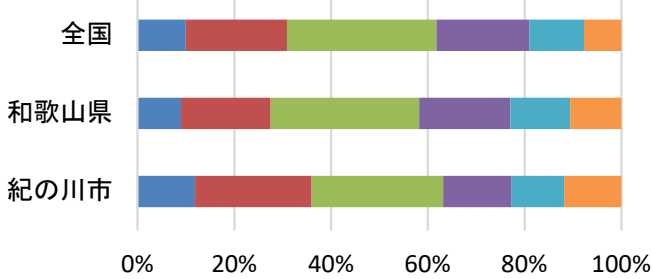
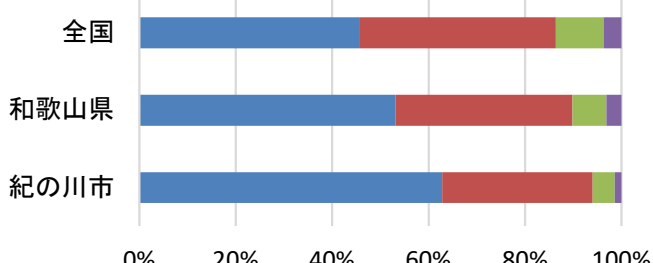
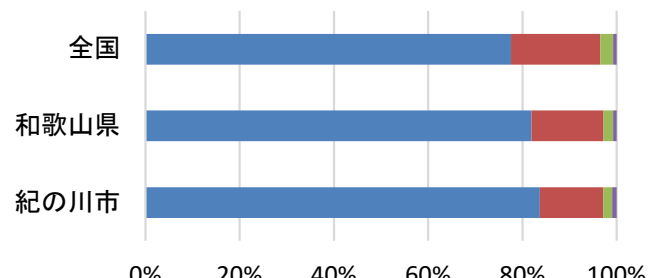
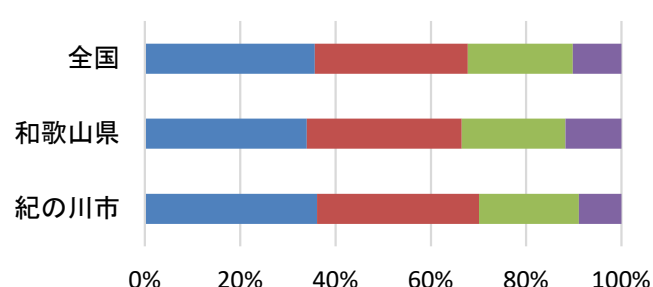
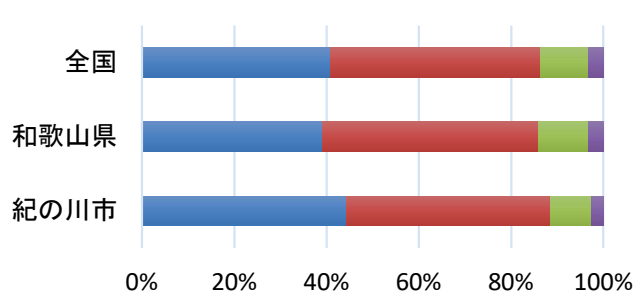
一日あたりの学習時間(塾等も含む)は、どれくらいですか。



新聞を読んでいますか。



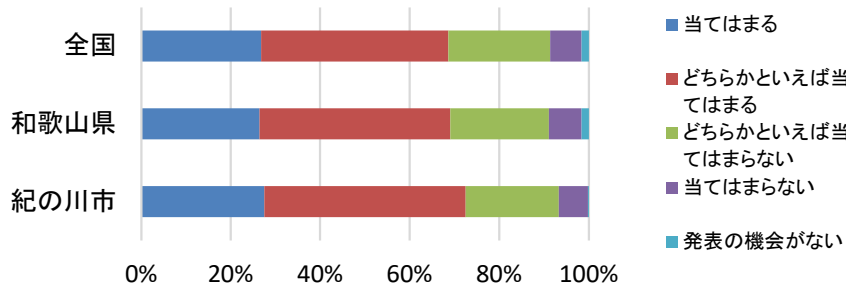
中学校



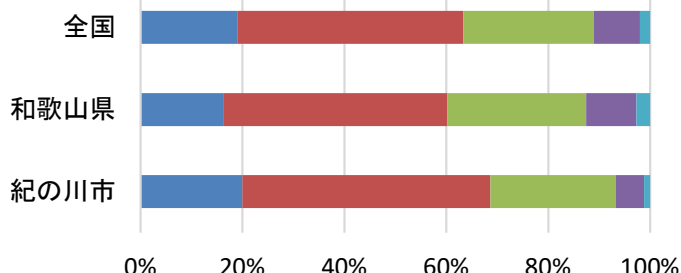
児童生徒質問紙調査結果概要 ※全項目(小、中69)の内、特徴的なものを一部抜粋

小学校

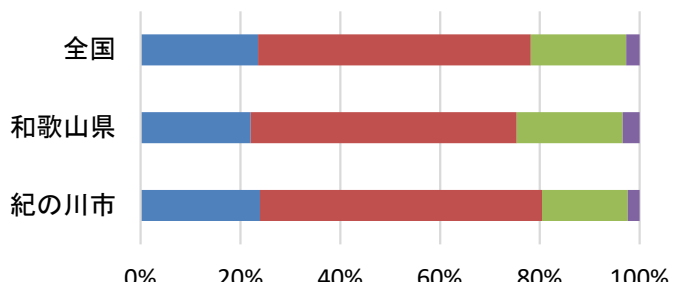
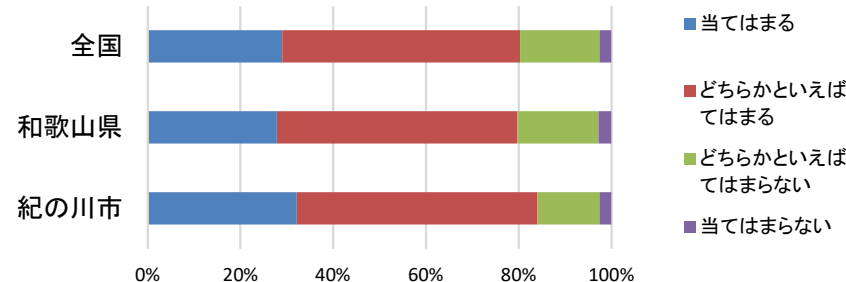
5年(中学2年)生までの授業の中で、自分の考えがうまく伝わるよう、工夫して発表していたと思いますか。



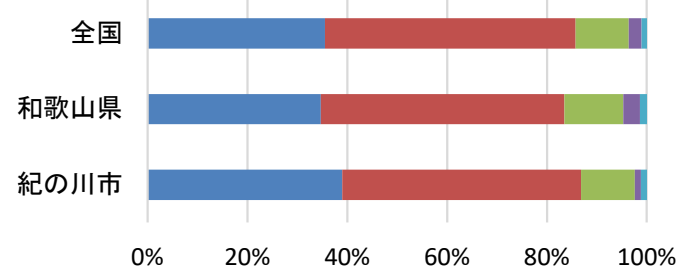
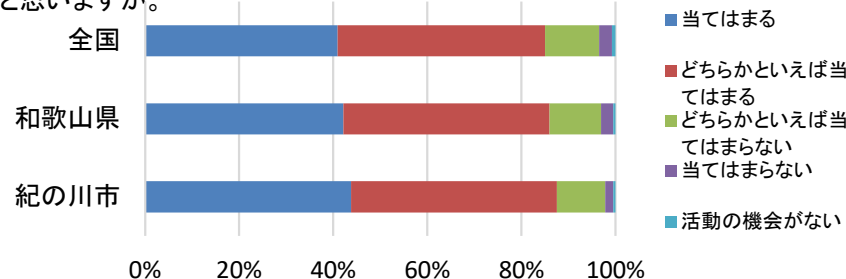
中学校



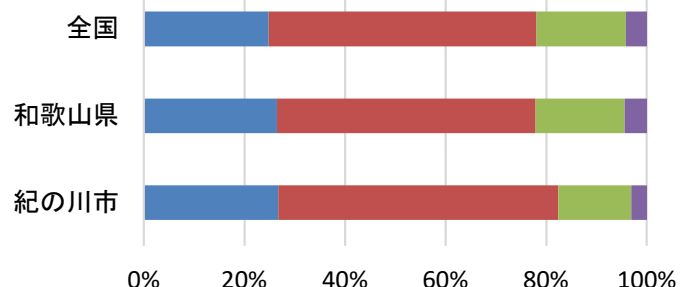
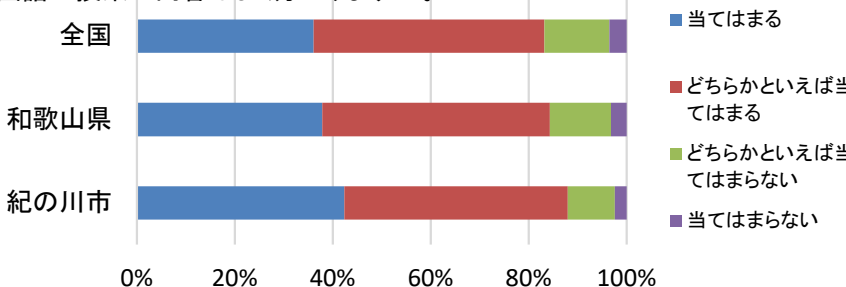
5年(中学2年)生までの授業の中で、課題解決に向けて、自分から考え、自分から取り組んでいたと思いますか。



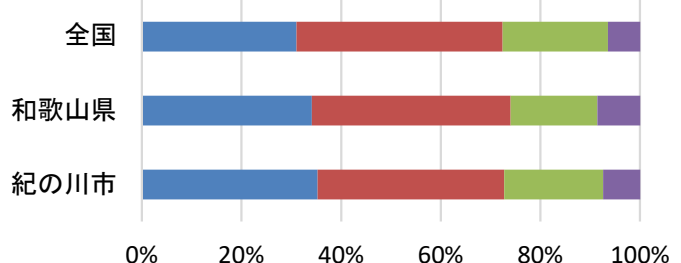
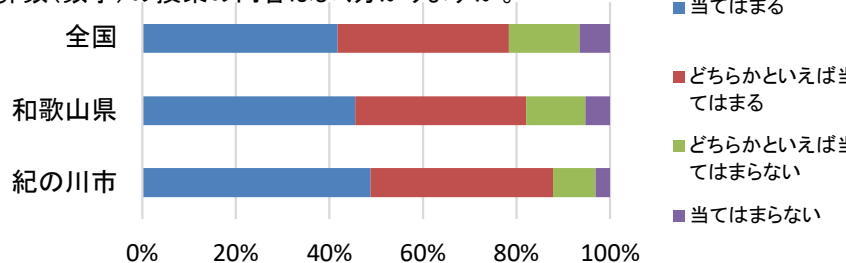
5年(中学2年)生までの授業の中で、話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気づいたりすることができていると思いますか。



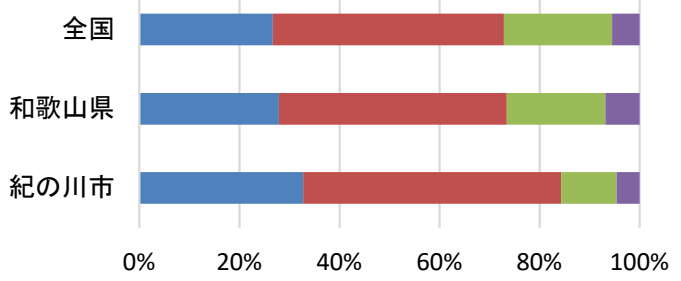
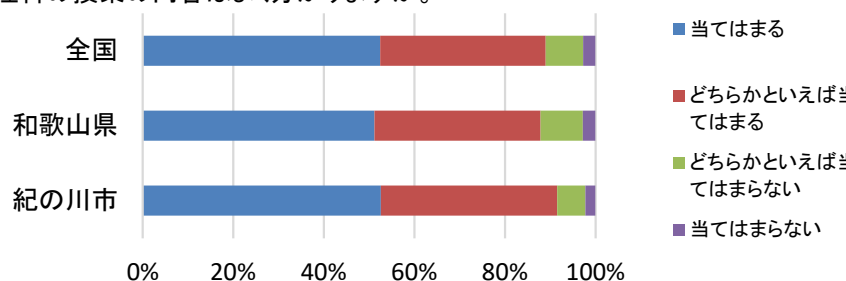
国語の授業の内容はよく分かりますか。



算数(数学)の授業の内容はよく分かりますか。



理科の授業の内容はよく分かりますか。



【本市小学生の傾向】

本市の小学生は、自分にはよいところがあると感じる児童の割合が全国平均よりも高いが、学校へ行くのが楽しいと感じている児童の割合はさらに高い。学習面においては授業の内容がよく分かると80%以上の児童が回答しており、安定して学習に取り組んでいることが分かる。家庭学習に1日2～3時間以上取り組んでいる児童の割合が約25%、1時間から2時間が約30%、1時間未満が約40%、約5%が全くしない児童の割合で全国平均とほぼ同程度である。

【本市中学生の傾向】

本市の中学生は自分にはよいところがあると感じ、将来の夢や目標を持っている生徒の割合が全国平均よりも高いが、学校へ行くのが楽しいと感じる生徒が約94%おり、全国平均よりもさらに高い割合になっている。学習面においては、学習内容がよく分かると回答した生徒が、国語と理科で全国平均よりも高く、数学は同程度であった。家庭学習は1日2～3時間以上の生徒の割合が全国平均を上回っているが、全くしないと回答した生徒の割合も全国平均を少し上回った。二極化が進んでいることが分かる。

概要についてのまとめ・今後の方向性

◇選択式や短答式問題と比べ、記述式問題は正答率が低く、無解答率が高くなる傾向にあったが、あらゆる教科で様々な条件に合わせて書いたり、根拠を明確にして書いたりする活動を取り入れるなど、「書く力」の育成に取り組んできたことで、小学校で成果が表れ始めている。

◇学習指導要領に示されている目標達成に向けて、児童生徒が分かりやすく、学習内容を定着させることができるような授業改善に取り組んでいく。

- ・子どもたちが自ら課題を設定し、見通しを立て、問題解決に向かうことができる授業、対話の中で新しい気づきや深まりが得られるような授業を目指し、学習形態の工夫等に取り組んでいく。
- ・何を学び、何ができるようになったかはもちろん、どのような学習方法や取組で課題を解決することができたか、他教科や次時につなぐことができるような振り返りを行っていく。
- ・個人で考察し、仲間と話し合って考えを深め、発表するという主体的・対話的な深い学びを実現する授業を目指す中、児童生徒質問紙において授業で課題解決や話し合い活動、発表の工夫などの取組をしていると回答した児童生徒は全国平均を上回っていることから、今後も引き続き取り組んでいく

◇読書を全くしない児童生徒の割合が多いことから、図書館の利活用をより一層推進し、教員と学校司書との連携により「読む力」を身につけられるようにする。

◇タブレットを活用した自主学習の機会を設け、一人一人の児童生徒に適した学習課題に取り組むことができるよう、保護者との協力・連携を図って家庭学習を充実させる。



紀の川市では、調査結果を分析し、学校教育や本市の教育施策の改善、児童生徒の学力の向上等につなげるため、具体策を立てるとともに、教育委員会が保護者や地域住民に対して説明責任を果たすことが重要であると考え、本市のホームページ等を通じて結果を公表しています。

一方で、本調査によって測定できるのは、学力や生活状況の一面であることも踏まえ、教育上の効果や影響等を十分配慮し、紀の川市の将来を担い、21世紀を果敢に生き抜く人材育成のために、よりよい方策を考え取り組んでいきます。